

研究倫理に関する学習・教育目標等一覧（概要）

項目		1. 学術における誠実性	2. 研究者の役割と社会的責任	3. 責任ある研究活動	4. 法令の遵守
主たる概要		学術・研究における誠実性（Academic Integrity）について理解し、持つべき姿勢・態度等を共有する ・東京科学大学理工学系の学生としての自覚を持つこと ・研究者としての姿勢・態度等を持つこと ・「東京科学大学における研究者等の行動規範」の理念の理解と重視すべき価値の共有など	研究者が担う役割と社会的責任を理解し、持つべき姿勢・態度等を共有する ・研究者は社会の責任あるメンバーであるとの意識 ・学術・研究における今日的倫理問題の理解 ・科学技術の環境及び社会に与える影響の理解など	責任ある研究活動（RCR: Responsible Conduct of Research）（以下RCRとする）の概念とその重要性を理解し、実践する ・研究の自由と守るべきものへの理解 ・正しいデータの扱い ・オーサiershipの理解など	責任ある研究活動を実践する上での規則やポリシーに関する知識を持ち、これらを遵守する ・国や大学が定める研究に関する諸規則・ポリシー ・研究不正への対応に関する規則 ・研究費の適切な利用など
学習・教育目標	【レベル3】 博士後期課程	あらゆる専門分野に共通の事項の理解、各専門分野で必要な事項の理解をさらに深め、可能な範囲で、周囲に指導できる・適切な研究環境を構築できる			
	【レベル2】 学士特定課題 研究開始後～ 修士課程	あらゆる専門分野に共通の事項を理解を深め、また、研究を実施しながら、各専門分野で必要とする事項の理解を深める。 （例）研究環境の安全への配慮、インフォームド・コンセント、個人情報の保護、ラボノートの記載やデータの取扱い、守秘義務、オーサiership、発表方法（二重投稿・二重出版等の禁止）、著作権の保護、研究費の使用			
	【レベル1】 学士特定課題 研究開始前	本格的な研究を開始する前に、あらゆる専門分野に共通の基本的な事項を理解する。（＋ 各専門分野で必要とする基本的な事項の理解） （例）学術・研究における誠実性に基づく姿勢・態度（カンニングをしない、同一レポートを使いまわさない、他者が作成した物を自分が作成したことにしていない等）、倫理的な意思決定の方法（セブン・ステップ・ガイド等）、科学技術と社会との関係（社会に与える影響等）、倫理問題のケーススタディ、レポートの書き方、引用のやり方、研究ノートの作法、データ（※）の収集・管理・処理、特定不正行為に関する知識（ねつ造、改ざん、盗用）、規則やポリシー等の存在 （※）データ：理性的な推論のために使われる、事実に基づくあらゆる種類の情報（「科学の健全な発展のために」日本学術振興会）			
学習方法 （例示）		【授業科目】倫理を冠した科目。なお、授業の一部で取り上げるケースもある（詳細は各授業科目のシラバスを参照） 【ガイダンス】ガイダンスやオリエンテーション、研究倫理講習会など 【オンライン】eAPRIN基本コース（e-Learning）（6時間。1単元おおよそ20～30分程度。）、eAPRIN JSTコース（理工系（e-Learning）（5時間。1単元おおよそ20～30分程度。）、SPOC(各6時間)、日本学術振興会 研究倫理eラーニングコース e_LCoRE(90分) 【その他】研究室活動、科学技術振興機構「研究倫理教育用の映像教材『THE LAB』」、諸規程・ガイドライン、本学HP（在学生向け 研究倫理に関するページ）、あらゆる機会に（Ethics at every opportunity.）			
確認方法		各レベルに応じたチェックリストを実施。（毎年確認、最低年1回）			

《研究倫理に関する学習の例示》

レベル1：「立志プロジェクト」の履修（B1）、「系所属後のオリエンテーション」で話題提供（B2）、「教養卒論」の履修（B3）、各科目で話題提供、eラーニングによる自主学習

レベル2：研究室内で「映像教材『THE LAB』」を用いたディスカッションの実施、様々な科目で話題提供、eAPRINによる自主学習、「コースのオリエンテーション」で話題提供（M1）

レベル3：レベル2に加えて、研究室内で「映像教材『THE LAB』」を用いたディスカッションの実施（他の学生をリードする。）、適切な研究環境を構築する。